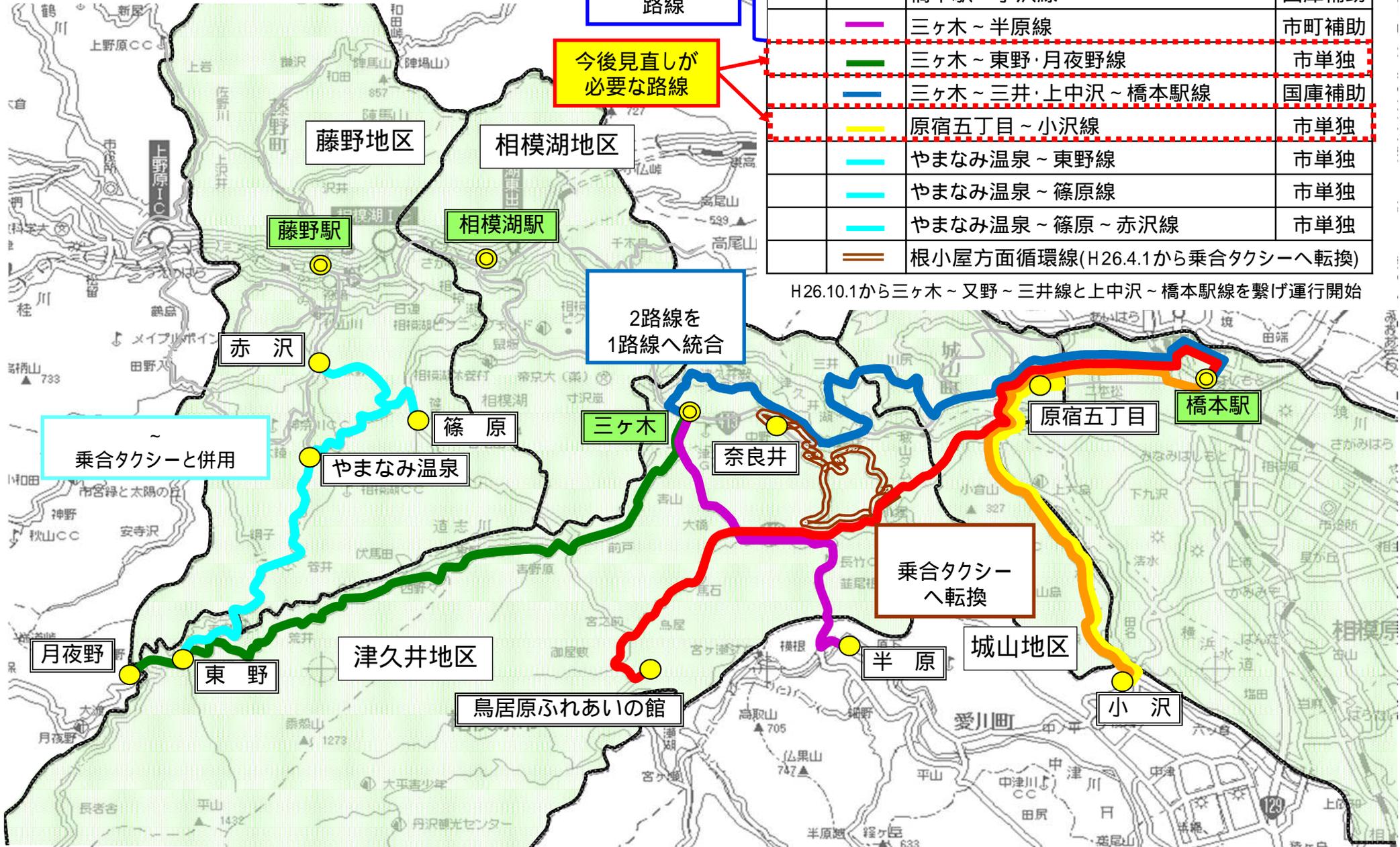


## 施策実施状況の評価(平成26年度)

<p>【施策名】 生活交通維持確保路線の見直し</p>	<p>実施状況の 検証</p>	<p>指標</p>	<p>見直し路線数</p>
		<p>実施状況</p>	<p>6路線</p>
	<p>モニタリング 指標の変化</p>	<p>指標</p>	<p>見直し路線の収支比率</p>
		<p>基準値</p>	<p>27.2% ~ 5.8%</p>
		<p>実績値</p>	<p>21.6% ~ 5.5%</p> <p>(4月から1路線を廃止し乗合タクシーへ転換、10月から2路線を1路線に統合、3路線で平日通勤・通学時間帯以外を廃止し、乗合タクシーと併用)</p>
	<p>評価(案)</p>	<p>収支比率が5.5%のやまなみ温泉を起点とする3路線は、収支比率の改善は見込めないが、小中学生の通学に必要な便のみ運行することとしている。また、他の見直し路線の利用状況はおおむね順調であり、残る見直し対象の2路線についても、地域住民・市・事業者が協力して見直しが必要である。</p>	

# 生活交通維持確保路線

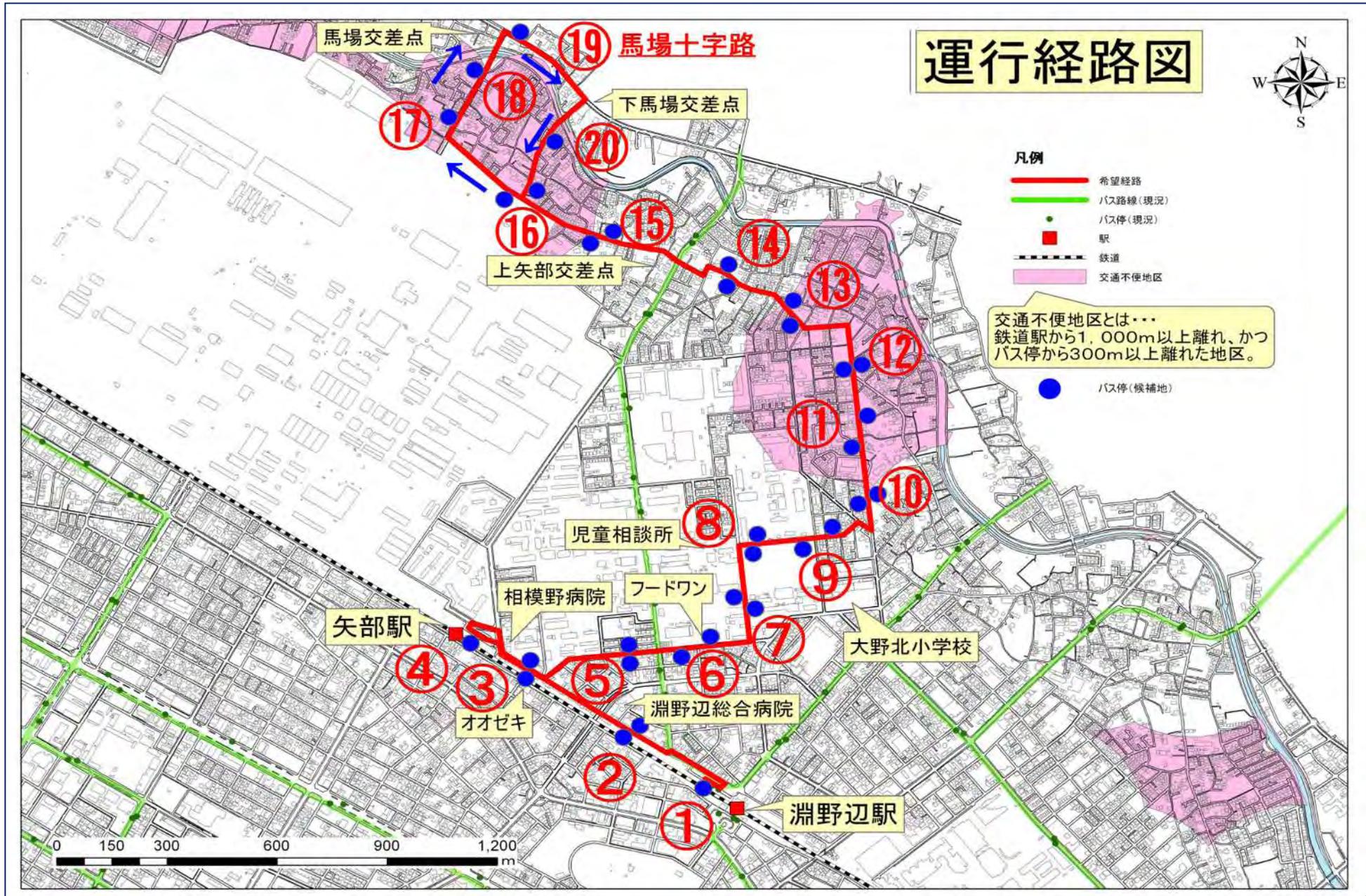


	鳥居原ふれあいの館～橋本駅線	国庫補助
	橋本駅～小沢線	国庫補助
	三ヶ木～半原線	市町補助
	三ヶ木～東野・月夜野線	市単独
	三ヶ木～三井・上中沢～橋本駅線	国庫補助
	原宿五丁目～小沢線	市単独
	やまなみ温泉～東野線	市単独
	やまなみ温泉～篠原線	市単独
	やまなみ温泉～篠原～赤沢線	市単独
	根小屋方面循環線(H26.4.1から乗合タクシーへ転換)	

H26.10.1から三ヶ木～又野～三井線と上中沢～橋本駅線を繋げ運行開始

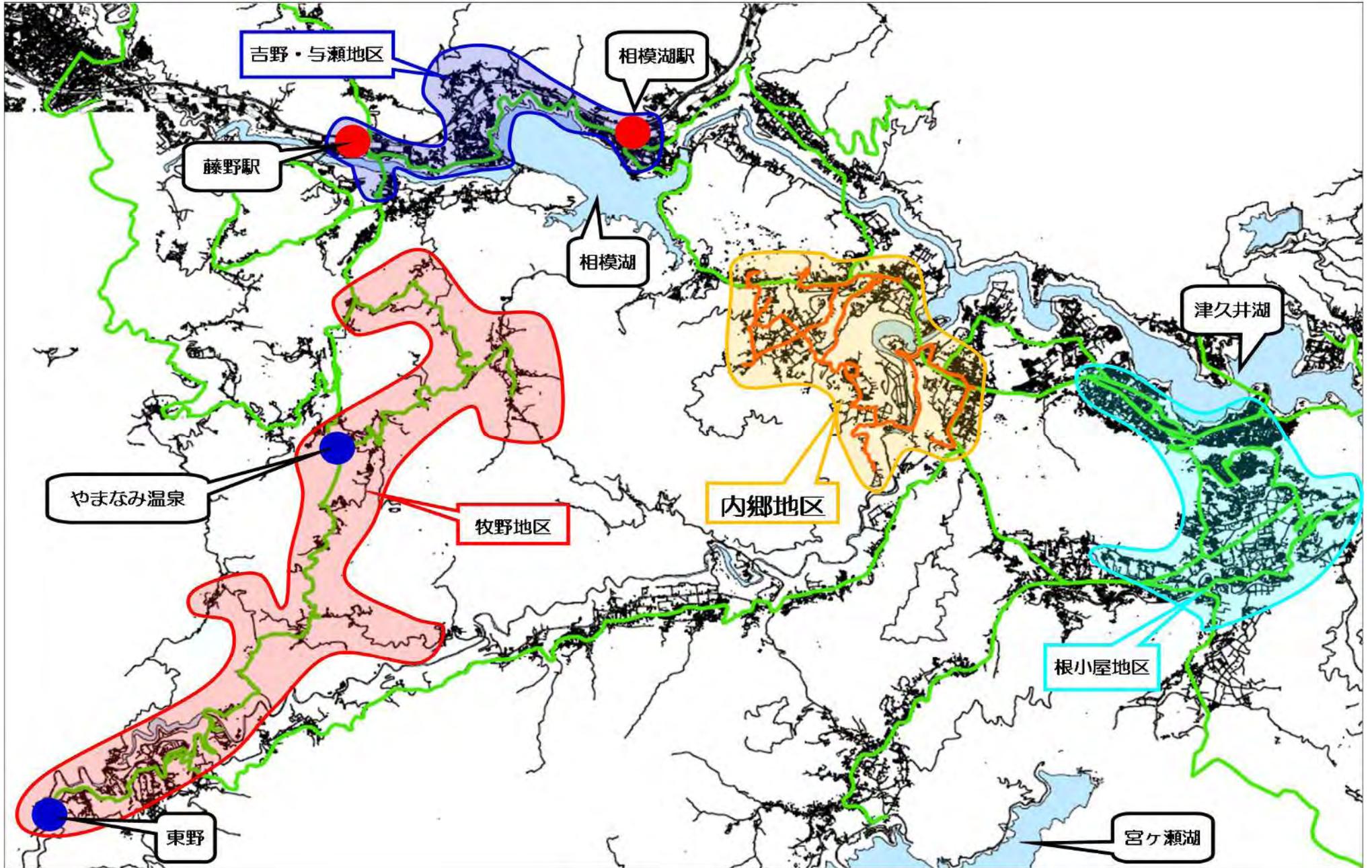
<p>【施策名】 コミュニティ バス導入ス キームの運 用</p>	<p>実施状況の 検証</p>	<p>指標</p>	<p>運用・検討箇所数</p>
		<p>実施状況</p>	<p>運用：1地区</p>
	<p>モニタリング 指標の変化</p>	<p>指標</p>	<p>運行路線利用者数</p>
		<p>基準値</p>	
		<p>実績値</p>	<p>H26.2.1大野北地区で運行開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度 7,367人</li> <li>・H26年度 55,926人</li> </ul>
	<p>評価(案)</p>	<p>新規地区への導入が実現し、公共交通圏域の拡大やバス利用者数の増加につながったが、利用者数が事前に予測した値に達しておらず、利用実績が運行継続条件を満たしていない。地域住民が求めるサービスと運行内容に齟齬が生じている可能性があり、運行継続に向け地域住民・市・事業者が協力して運行内容の見直しや利用促進等の取り組みが必要である。</p>	

# 大野北地区コミュニティバス運行経路図



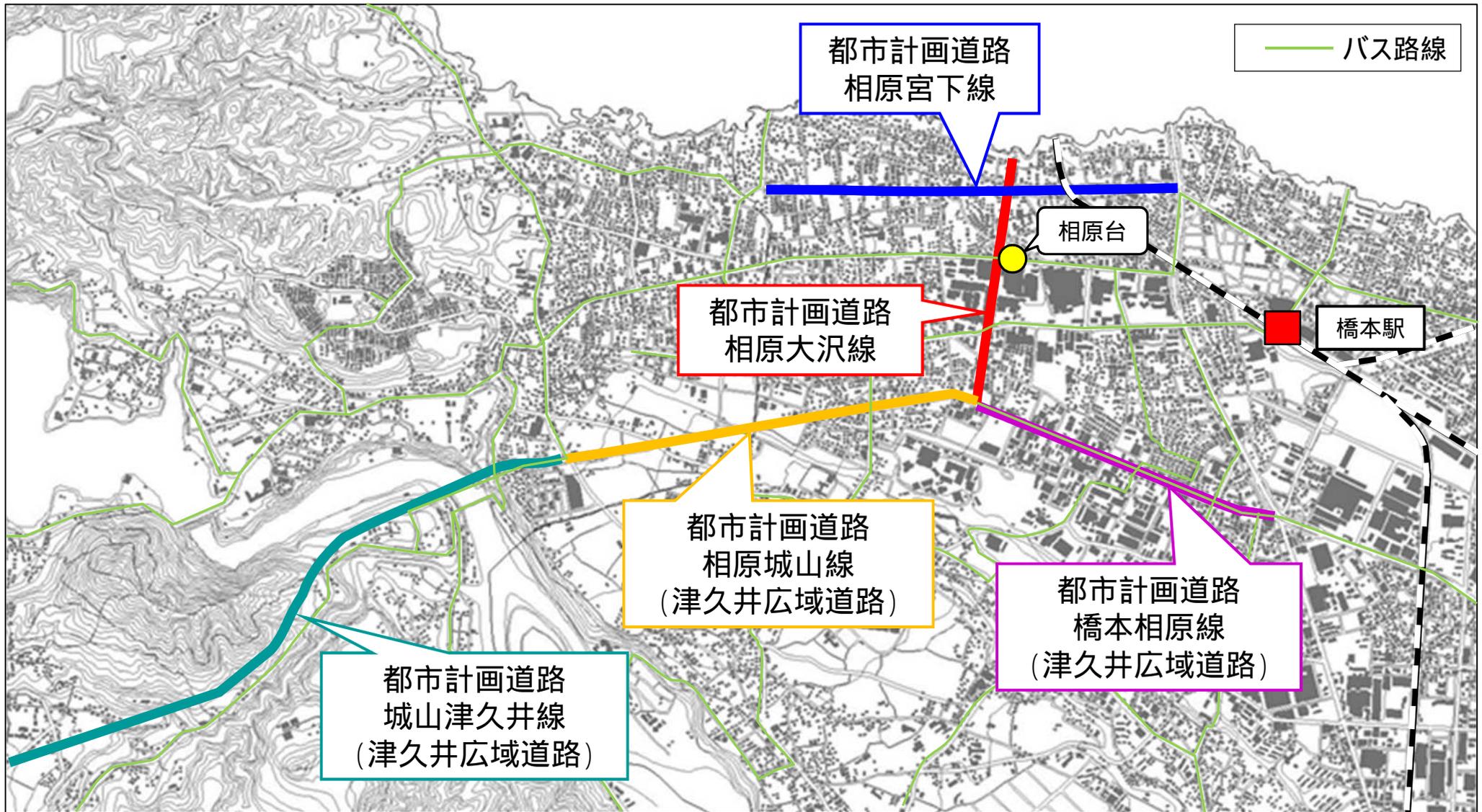
<p>【施策名】 乗合タクシー 導入スキームの運用</p>	<p>実施状況の 検証</p>	<p>指標</p>	<p>運用・検討箇所数</p>
		<p>実施状況</p>	<p>運用:3地区</p>
	<p>モニタリング 指標の変化</p>	<p>指標</p>	<p>運行路線利用者数</p>
		<p>基準値</p>	
		<p>実績値</p>	<p>H26.4月から運行開始 ・根小屋地区 8,355人(バスから転換)  H26.10月から運行開始 ・牧野地区 646人(バスから転換) ・吉野・与瀬地区 971人(新規導入)</p>
	<p>評価(案)</p>	<p>新規地区への導入やバスからの転換により、公共交通圏域の拡大につながったが、牧野地区の利用実績が運行継続条件を満たしていない。地域住民が求めるサービスと運行内容に齟齬が生じている可能性があり、運行継続に向け地域住民・市・事業者が協力して運行内容の見直しや利用促進等の取り組みが必要である。</p>	

# 乗合タクシー運行区域図



【施策名】 都市計画道路の整備	実施状況の 検証	指標	対象都市計画道路の整備延長 (城山津久井線、相原城山線、橋本相原線、 相原大沢線、相原宮下線) 計画総延長:16,940m
		実施状況	整備済延長:9,437m (H26年度整備延長:2,661m)
	モニタリング 指標の変化	指標	新設に伴う整備区間周辺路線の混雑時所要 時間(相原台～橋本駅北口間)
		基準値	13分
		実績値	11分
	評価(案)	整備が進み所要時間の短縮が図られた。更なる所要時 間の短縮に向け、引き続き道路管理者が未整備区間 (7,503m)の整備に取り組むことが望ましい。	

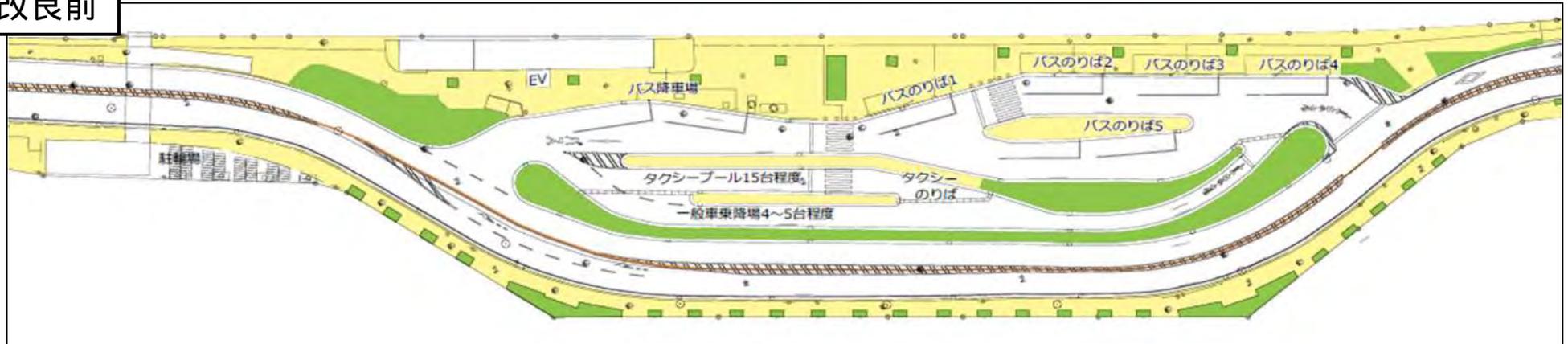
# 対象都市計画道路



【施策名】 TDMの推進	実施状況の 検証	指標	実施施策数
		実施状況	H26.3月 橋本駅南口駅前広場改良完了 H26年度 同駅前広場の利用方法の周知・ 啓発活動実施(3回)
	モニタリング 指標の変化	指標	施策を実施した路線の混雑時所要時間 (三ヶ木～橋本駅北口間)
		基準値	54分
		実績値	51分
	評価(案)	<p>周辺の都市計画道路の整備等、他の施策による影響も考えられるが、駅前広場を改良し、南口の利便性が向上したことにより北口への所要時間の短縮に寄与したものと考えられ、引き続き市と交通管理者で駅前広場の正しい使い方の周知に取り組むことが望ましい。</p>	

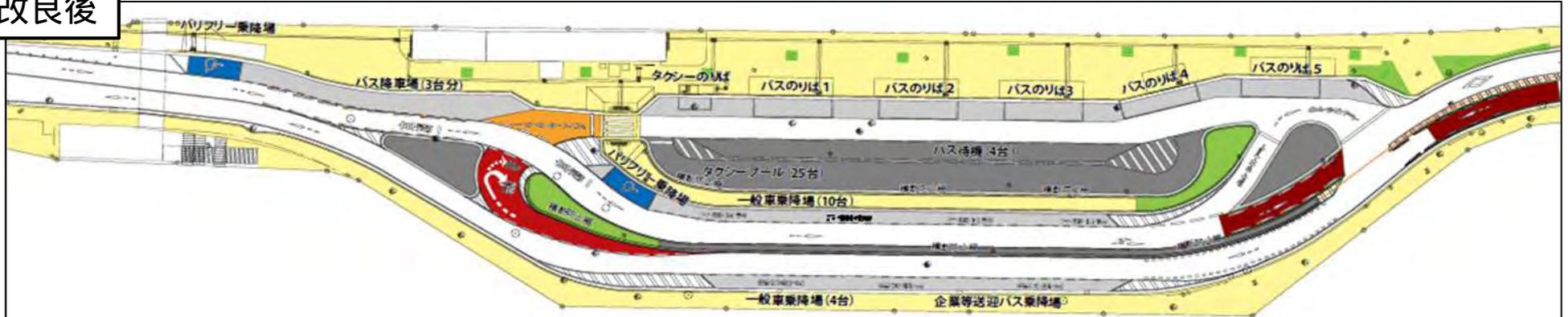
# 橋本駅南口駅前広場

改良前



【バス】乗場: 5箇所 降車場: 1台分 待機場所: 1台分 【タクシー】乗場: 1箇所 待機場所: 16台  
 【一般車】乗降場: 5台

改良後



【バス】乗場: 5箇所 降車場: 3台分 待機場所: 4台分 【タクシー】乗場: 1箇所 待機場所: 25台  
 【一般車】乗降場: 14台 【企業バス】乗降場: 3台

【施策名】 ターミナル等 での乗り継ぎ の円滑化	実施状況の 検証	指標	施設の新設・改良箇所数
		実施状況	H26.3月田名バスターミナル、 H27.2月相模大野駅(バス発車案内システムから更新)に新設
	モニタリング 指標の変化	指標	運行情報提供設備導入率(設置候補箇所数に対する導入箇所の割合)
		基準値	0.0%
		実績値	14.3% (14箇所中、2箇所設置) 田名バスターミナル、相模大野駅
	評価(案)	ターミナル整備等に合わせ2箇所に導入することができた。バス事業者は他の設置候補箇所(12箇所)への導入に、市は導入に対する補助について引き続き取り組むことが望ましい。	

# 相模大野駅 バス運行情報案内表示機



### バスのりば案内

乗場	系統	行き先	経由地	バス情報
北1	155	北里大学病院・北里大学	ホール・大野	
北2	1605	相模原駅南口	ホール・大野台	
北3	1610	北里大学病院・北里大学	南澤台	
北4	1605	小田急相模原駅	原町	
北5	1620	相模原駅南口	ホール・大野台	
南1	1640	相模大野駅南口	中野田緑地	

◇ 表示文字は予定時刻の6分前になると黄色に変わります。  
2月18日(水)16:04 お知らせ3ります。

乗場	系統	行き先	経由地	バス情報	乗場	系統	行き先	経由地
北1	1610	北里大学病院・北里大学	ホール・大野		北2	1625	北里大学病院・北里大学	ホール・大野
北2	1605	相模原駅南口	ホール・大野台		北3	1625	相模原駅南口	ホール・大野台
北3	1610	北里大学病院・北里大学	南澤台		北4	1620	女子美術大学	南澤台
北4	1605	小田急相模原駅	原町		北5	1635	小田急相模原駅	原町
北5	1620	相模原駅南口	ホール・大野台		南1	1640	相模原駅南口	ホール・大野台
南1	1640	相模大野駅南口	中野田緑地			1720	相模大野駅南口	中野田緑地

◇ 表示文字は予定時刻の6分前になると黄色に変わります。  
2月18日(水)16:05 お知らせ後に平均2分の遅れが出ております。

【施策名】 バス発車案内 システムの設置	実施状況の 検証	指標	バス発車案内システム設置箇所数
		実施状況	田名バスターミナルでH26.4月から運用開始
	モニタリング 指標の変化	指標	バス発車案内システム設置箇所に発着する路線の利用者数
		基準値	48,776人/日(3箇所) 相模大野駅、相模原駅、橋本駅
		実績値	51,523人/日(4箇所) うち田名バスターミナル2,375人/日
	評価(案)	<p>新規設置箇所に加え、従前から設置している3箇所においても利用者数が増加しており、より多くの利用者の利便性向上が図られている。</p> <p>今後は、バス事業者はバス発車案内システムの機能を有する運行情報案内表示機への更新や新設に、市は導入に対する補助について引き続き取り組むことが望ましい。</p>	

# 田名バスターミナル バス発車案内システム (バス運行情報案内表示機)

# 相模原駅バス発車案内システム

Kanachu 神奈川中央交通 田名バスターミナル総合案内 7月2日(水) 9:12

系統	路線	行き先	発車地	発車時刻	到着時刻	備考
1	高02	北里大学病院・北里大学	原田駅前	10:08	9:59	9:40
				10:53	10:44	10:25
2	相17	本郷田名	ふれあい科学館前	9:33	9:28	9:25
				10:20	9:59	9:52
4	高57	湯野辺駅南口	上流	10:01	9:44	9:30
				10:21	10:14	10:00
5	相57	橋本駅南口	橋戸	9:46	9:30	9:20
				10:06	9:50	9:40
6	相17	相模原駅南口	田名バスターミナル	9:53	0:00	9:30
				10:13	0:00	9:50

※赤字は、発車時刻が4分前になると黄色に変わります。  
お知らせ! 在、発車後に平均 2 分の遅れが出ております。



【施策名】 ターミナル 施設の整備	実施状況の 検証	指標	施設の新設・改良箇所数
		実施状況	田名バスターミナル新設(H26.4月供用開始) 橋本駅南口駅前広場改良(H26.3月完了)
	モニタリング 指標の変化	指標	バスターミナル施設利用者
		基準値	71,500人(ターミナルに位置付けられている10 箇所の乗降者数)
		実績値	62,690人(H25.4.18) 67,976人(H26.4.17) 整理券投入者とICカード利用者数 (基準値とは計測方法が異なる)
	評価(案)	指標の計測方法が異なるため、基準値を下回っているが、 昨年同時期と比較して利用者数は増加している。特に、田 名バスターミナルの整備により多方面への乗り継ぎがしや すくなり、利用者の増加に寄与していることから今後も拠点 施設の機能向上を図り、バス待ち環境の安全性・快適性の 向上に市とバス事業者で取り組むことが望ましい。	

# 田名バスターミナルの整備経過

H18.11月



H22.6月



H26.3月



# 田名バスターミナル 乗降バス等の配置図



【施策名】 ICカード 乗車券の 普及・利用促進	実施状況の 検証	指標	普及に向けた取組実施回数
		実施状況	有
	モニタリング 指標の変化	指標	現金支払い者とICカード乗車券利用者の比率
		基準値	71.18%
		実績値	H25年度 76.93% H26年度 80.19%
	評価(案)	<p>車内でのポスター掲示による利用者への周知などの取り組みの実施効果もありICカードの普及率は年々上昇している。更なる普及率の向上に向け、バス事業者による施策の充実や市とともに広く周知に取り組むことが望ましい。</p>	

【施策名】 バス利用者マナーの啓発	実施状況の 検証	指標	啓発活動実施回数
		実施状況	有
	モニタリング 指標の変化	指標	利用マナーの向上(マナーが悪いことへの対応に負担を感じる運転手数)
		基準値	H19年調査 16件(回答者数113人)
		実績値	H27年調査 16件(回答者数173人)
	評価(案)	<p>マナーが悪いことへの対応に負担を感じる運転手の割合は下がったものの、件数としては変わらない。啓発が不十分である可能性があることから、バス事業者による施策の充実や市とともに広く啓発活動を行うなど引き続き利用者マナーの向上に向けた取り組みが必要である。</p>	

【施策名】 啓発講座等 の実施	実施状況の 検証	指標	啓発活動実施回数
		実施状況	有
	モニタリング 指標の変化	指標	利用方法、運行意義の理解度
		基準値	アンケートの実施
		実績値	H26.9.13に矢部駅付近で開催されたイベントにおいて、児童及び保護者を対象とした乗り方教室を実施(参加者50名)
	評価(案)	啓発活動の実施によりアンケート回答者(22人)のうち、78%が今回の乗り方教室の内容が良かった、同じく78%が今までよりもバスを利用してみようと思うと回答している。今後も継続的に市とバス事業者で啓発活動に取り組むことが望ましい。	

【施策名】 ノンステップ バスの導入	実施状況の 検証	指標	ノンステップバスの導入台数
		実施状況	6台
	モニタリング 指標の変化	指標	対象路線でのノンステップバス運行 比率 (対象路線:大54、大53、相25、相05、 相02、相31、相21の7系統)
		基準値	21.23%(導入率13.5%、市内34台)
		実績値	15.53%(導入率21.1%、市内50台)
	評価(案)	<p>市内のノンステップバス導入台数は増加しているものの、指標の計測にあたっては、同時期の特定日を調査しており、調査日の配車状況により対象路線の運行比率が下がっている。バス事業者は更なる導入率の向上に努めるとともに、市は導入に対する補助について引き続き取り組むことが望ましい。</p> <p>なお、指標の考え方について検討が必要である。</p>	

【施策名】 マイカーからの 転換促進	実施状況の 検証	指標	TDMの実施の有無
		実施状況	有
	モニタリング 指標の変化	指標	マイカーからの転換率 (MMの実施により車利用を控えようと思 う人の割合)
		基準値	実施時に調査
		実績値	55% (大野北地区住民MM) 38% (田名地区住民MM)
	評価(案)	地区により意識の差があるものの、MMの実施効果が確認された。特に大野北地区においては車利用を控えようと思 う人の割合がH25実施時の33%から55%に改善している。マイカーから公共交通への転換促進に向け市とバス事業者による市民への働きかけを継続的に取り組むことが望ましい。	